アフターコロナの地域コミュニティ

アフターコロナの町内会の処方箋

2020年8月22日 酒本 宏

酒本 宏(さけもと ひろし)

- 株式会社Glocal Design(グローカルデザイン) 代表取締役
- 株式会社KITABA 取締役会長
- 技術士(都市及び地方計画部門・総合監理部門)
- 北海学園大学非常勤講師
- 札幌市 まちづくりセンターアドバイザー
- 全国商店街支援センター・アドバイザー

■プロジェクト(市民自治・コミュニティデザイン関連のみ)

- 2005年 札幌市市民活動促進条例策定支援(市民まちづくり活動促進条例)
- 2006年 札幌市自治基本条例に関連した子どもワークショップ
- 2007年「区民協議会のあり方等に係わるアドバイザー会議」運営業務 東区まちづくり参加入門講座コーディネーター
- 2008年 市民まちづくり活動基本計画策定支援
- 2009年 市民による集中評価会議コーディネーター
- 2011年 まちづくりセンター機能PRによる市民活動促進事業
- 2012年 地域力強化に向けた総合サポート事業企画運営業務
- 2013年 町内会による加入促進活動支援事業企画運営
- 2014年~千歳市や札幌市、仙台市、滝川市、上富良野町などでも町内会活性化など の講演多数

■著書

- 道の駅/地域産業振興と交流拠点 編集・共著
- 「集落営農」/農山村の未来を拓く 共著
- 「ご当地ラーメン」の地域ブランド戦略 共著
- 「エコタウン」が地域ブランドになる時代 共著
- 農産物直売所/それは地域との「出会いの場」 共著
- 「村」の集落ビジネス 中山間地域の自立と産業化 共著 など

本日の話題提供

- 1. アフターコロナの地域コミュニティ
- 2. アフターコロナの町内会の処方箋
 - 2-1 変化は止められないの町内会も
 - 2-2 WITHコロナの町内会の処方箋
 - 2-3 アフターコロナの町内会の処方箋
 - 2-4 アフターコロナの町内会の運営

共通認識

変化は止められない

(コロナが針を進めた変化)

1. アフターコロナの地域コミュニティ

2025年 とある市内の地域コミュニティ

- コロナウィルス後、町内会に東京からの若い移住者が越してきた。
- 若い移住者は在宅ワークで、月に何度か東京の会社に行っているようだ。
- 町内会館をリノベーションしたカフェでこうした人が 仕事をしている。聞くと気分転換になるし、雑談がで きるので助かっているとのこと。
- このカフェは、町内会が別組織をつくり運営している。
- 町内会では、コロナウィルスを機に回覧板を減らし SNSで近所の情報を発信している。
- SNSでの情報発信は、最初は大変だったが、今は慣れてきて多くの人が利用しており、便利に感じている。
- コロナウィルスを機に役員の負担を減らすことも考え、 たくさんの人を集めるイベントはやめた。
- 一方でカフェに顔を出すようになった若い世代が、 地域の中でサークル的活動をやり始めて、人のつな がりが増やしてくれており、地域は活性化している。









アフターコロナの地域コミュニティ

地域コミュニティで 過ごす時間が増える

地域コミュニティを 知りたくなる 地域コミュニティで 居場所の ニーズが高くなる

地域コミュニティで 人や社会と つながりたくなる

オンラインが 日常になる

①地域コミュニティで過ごす時間が増える

会社から地域コミュニティへ

- 在宅ワークが増え、自宅と近所(地域コミュニティ)で 過ごす時間が増えます。
- ネット通販、テイクアウト、デリバリーの増加
- オンラインゲームの売上増加
- 家具メーカーの売上増加
- 散歩をする人が増加





②地域コミュニティのことが知りたくなる

地域コミュニティで過ごす時間が増えると地域のことが知りたくなります。

- 感染情報
- 近所のお店情報
- 子育てサロン情報
- スィーツなどの店情報
- ゆっくりできるカフェ情報
- おすすめの散歩コース
- 地域のサークル的活動情報



③地域コミュニティで「居場所」が欲しくなる

• 在宅ワークが増えると、自宅以外の「居場所」を求めるようになります。

求められる「居場所」の要件

- 気の向くまま出入りができ、くつろぐことができ
- 適度な会話がある
- アクセス(行きやすい)しやすい
- 「新顔」を快く受け容れる
- 日常に溶け込む簡素な外観(デザイン)
- 明るく遊び場的な雰囲気を持っている
- もうひとつの家のリビングな存在である





4地域コミュニティで人や社会とつながりたくなる

ひとり暮らしの人は誰かと雑談がしたいと思いようになります。

・地域コミュニティの活動などで社会の役に立っていることを 実感したい人が増えます。

在宅ワークによって会社への帰属意識 が弱くなり、新たに社会と関わりを持ち たくなる人も増えることが予想されます。

こうした人に活躍できる機会と場を提供することが求められます。





⑤オンラインが日常になる

- 仕事や学校の授業はオンラインになりました。
- 地域コミュニティの活動もオンラインで行われることにります。
- オンラインを取り入れることが求められます。
- 仕事はオンラインが標準
- 帰省もオンライン
- 学校の授業もオンライン
- オンライン診断
- 近所の情報もオンラインから
- オンラインでコミュニティをつくる



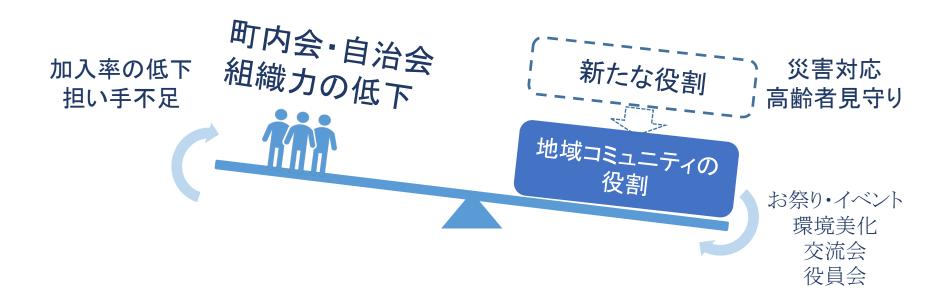


変わるアフターコロナの地域コミュニティを 見据えた町内会活動を行うことが必要

2. アフターコロナの町内会の処方箋

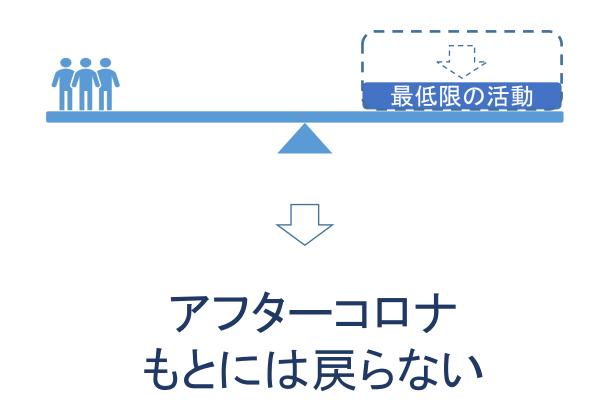
2-1 変化は止められないのは町内会も

コロナ前の町内会



現在の町内会の状況

(新型コロナウィルスの感染防止で活動を自粛)



地域コミュニティで暮らしている人々の意識は変わりました

地域コミュニティに対するニーズが変わっています

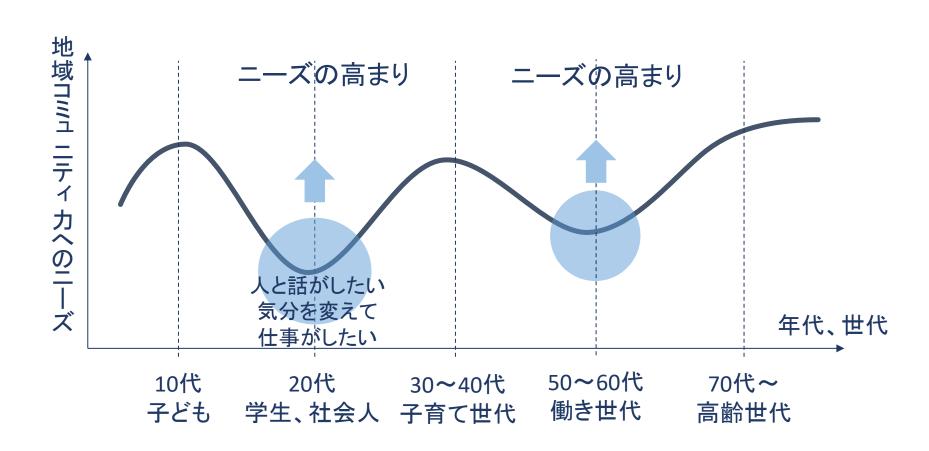


- 回覧板はやめてほしい
- 町内会のイベントがなくても困らない
- SNSやメールで情報を伝えて欲しい
- オンラインで会議をして欲しい



- 在宅ワークで孤独を感じる
- 誰かと話がしたい
- 近くにカフェなどがあるといい
- 地域のことを知りたい
- 買い物に行けない

アフターコロナでは 地域コミュニティの役割が高まります



2-2 WITHコロナの町内会の処方箋

- ・ 3密を避け、「孤独」の解消に重点をおきましょう
- 「情報共有」の方法を変更していきましょう

新型コロナウィルスによる自粛の町内会

- ●最小限の活動
- 活動はごみ集積所の管理
- 環境美化
- 総会、役員会、イベントは中止
- ●地域での課題
- 回覧板への疑問の声
- 自粛でひとり暮らしの高齢者が孤独
- 買い物に行けない(行きづらい)

感染拡大に備えて

- ●暮らしに必要な最小限の活動
- ゴミ集積所の管理・廃品回収
- 環境美化
- ●情報共有の方法の変更(回覧板は極力減らす)
- ゴミ集積所などに掲示板の設置
- FacebookページやSNSの活用
- 緊急性や重要度高いものは各戸配布
- ●自粛の中の暮らしをサポート
- ひとり暮らしの高齢者の見守り
- 高齢者の買い物代行 など



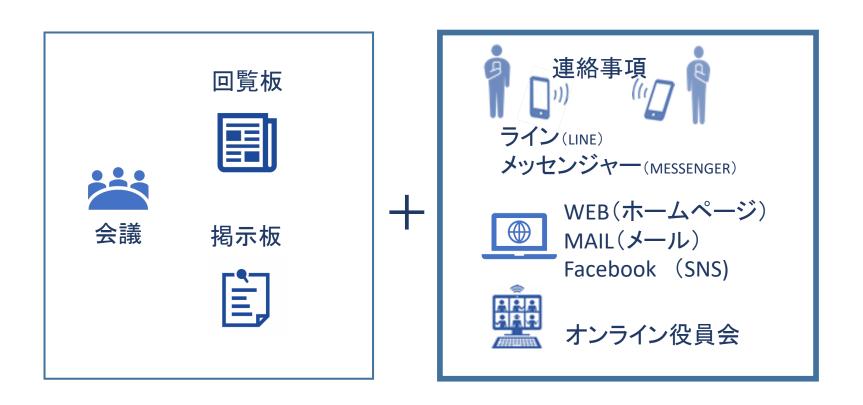
2-3 アフターコロナの町内会の処方箋

- ① 多様なコミュニケーションツールへの転換
- ②「孤独」の解消
- ③ 居場所づくり

①多様なコミュニケーションツールへの転換

- コロナウィルスで回覧板に対する苦情への対応
- オンラインの普及に対応

コミュニケーションツールの多様化が必須





厚生労働省 LINEによるアンケート



厚生労働省 新型コロナウィルス接触 確認アプリ

スマートフォンが前提となるこれからの情報発信

- 会員のニーズにあった多様な情報発信が求められます。
- スマートフォンで情報を得ることが、当たり前の会員が増えています。
- 町内会の情報も回覧板だけでなく、スマートフォンで入手できるようにすることも検討することが求められます。

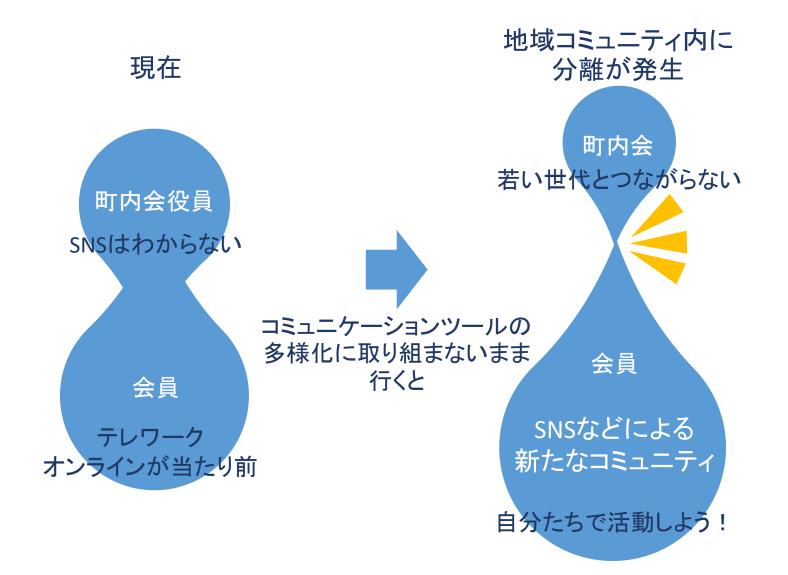
• SNSが不得意なら、逆手にとってそこだけサポートしてもらえる人を探しま

しょう

- ■町内会の新たな情報発信としてFacebook ページを作成。
- •Facebookによる広報に、高校生ボランティアを任命し、イベント行事などの情報発信を行っている。

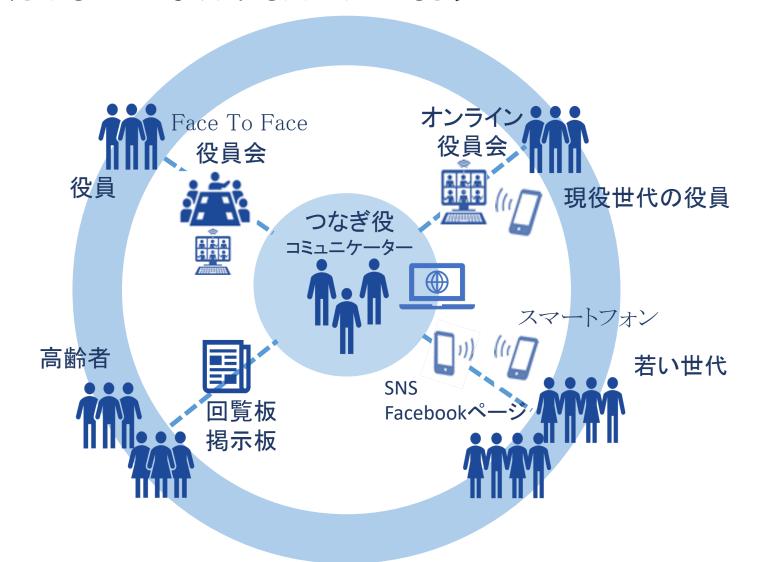


• 情報共有の手段(ツール)を変えていかないと将来的には、地域コミュニティの中で分離が発生することが懸念されます



大切になこと

役員自らやるのではなくやれる人にやってもらう



	メリット	デメリット	世代	特 徴
回覧板	判を押して回すことで安否確認になる。	回覧板を回す手間や、 回される書類が多す ぎて目を通せない住 民も多い。	高齢世代	町内会の情報を手に入れる方法として主流であり、 認知度が高い。
掲示板	見る習慣化がされ ていると効率的な 情報拡散が可能 である。	地域の掲示板が無かったり、掲示板が目立たないものであると情報が届かないことも多い。	全世代	ゴミステーションなどの住 民の目に入りやすい場所 に設置するなどの工夫も 必要である。
ポスティング	各戸に配布される ことで確実に手に 取ってもらうことが 可能である。	人手と時間がかかり、 チラシなどと混合する ことも多く、捨てられ てしまう可能性も高い。	全世代	手に取ってもらいやすいが、人手と時間がかかるため、重要度が高い情報に限って使用するなどのメリハリが必要である。
SNS	一度に多くの人に 情報を拡散するこ とができ、特に若 い世代への情報 伝達力が高い。	スマホなどを持って いない住民に対して は情報が届かない。 発信者側のSNS理解 も求められる。	現役世代	20代・30代にはTwitterや Instagram、50代・60代に はFacebookなどが主に使 用されている。

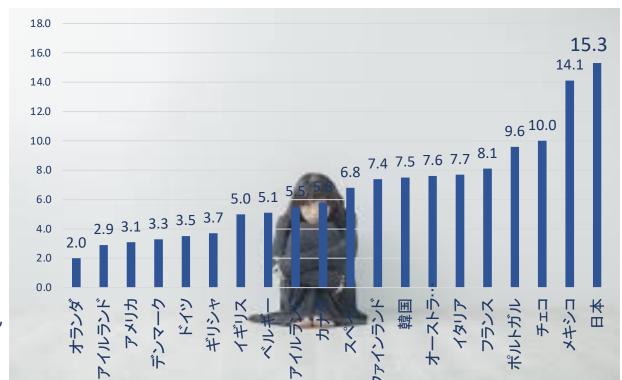
②「孤独」の解消

在宅ワークの若い世代

- 人と話をする時間が減少
- 会社とのつながりが薄れ、社会とのつながりを感じる機会が減少

高齢者

• 自粛の中で人に会う機会が減少



友人、職場の同僚、その他社会団体の 人々との交流が「全くない」または「ほとん どない」と回答した合計

出典: OECD, Society at Glance: 2005

自由に参加できる小さな活動

- 自分の好みで自由に参加できる小さな活動(少人数)に転換しましょう。
- 活動はSNSで発信しましょう。



健康増進を目的とした取り組み



サークル的活動



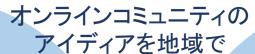
町内の清掃活動



料理教室

・若い世代がつくるオンラインコミュニティと連携して 孤独を解消する取り組みを行うことも想定しましょう

町内会



花壇づくり(環境美化)



サークル的活動







オンライン飲み会

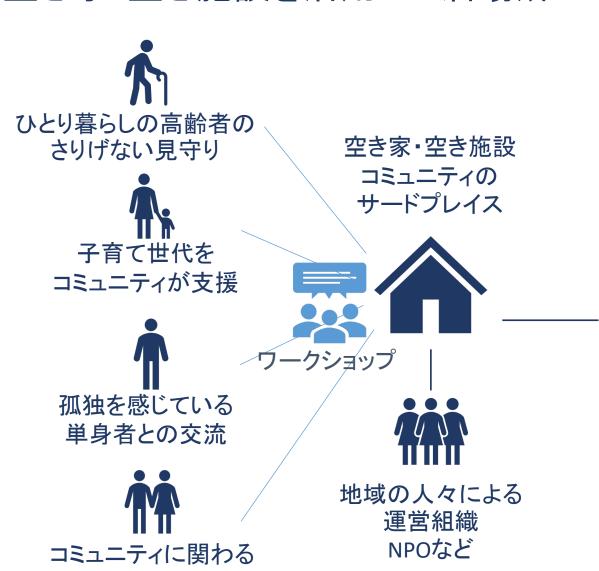


オンラインワークショップ

③居場所づくり

- 居場所づくりは、孤独の解消にもつながります。
- 空き家・空き施設などの活用と合わせて検討することも考えられます。
- 居場所づくりを進めることで、地域の人のつながりができます。
- そこから新たな活動が生まれます。

空き家・空き施設を活用した居場所づくり



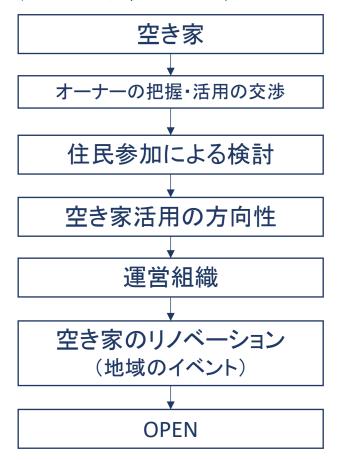
きっかけ



居場所づくりは参加型で

Community Build

空き家の活用を考えることで、地域コミュニティの再構築・活性化につなげます。







参考~居場所(サードプレイス)はつくりすぎないことがポイント







2-4 アフターコロナの町内会運営

多様な主体と連携して 地域コミュニティを運営する組織

ビジョンを持って 役員自らやる組織から 「場」と「機会」を提供する組織

役員は無理せず連携する町内会へ

- 町内会役員で無理のない範囲で活動を行う
- 地域の人々のニーズを取り入れ、町内会の活動を行う

